

## 第6回 丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会

### 議事要旨

日時：令和5年7月14日（金）14：30～16：29

場所：丸森町役場302会議室





## 1. 河川防災ステーションの利活用方針

### (1) 川の駅のキャッチコピーを考える

○みんなで詰めてきた「ヘルス・アンド・アウトドア」「健康アンドアウトドア」を一言で言う格好いいキャッチコピーを皆さん考えてください。絶対それが施設名に入るべきだと思う。名前聞いたら、あそこへ行ったら健康になれるそうとか、アウトドア楽しめそう、と思える名前。一言で表現する。（平野部会長）

## 2. (仮称)川の駅整備方針

{資料説明・丸森町}

### ①建築計画一前回からの主要な変更点

- 1点目は、民間事業者による事業展開を図るエリアを明確にしました。  
さらに、民間事業者による事業展開エリアの下の部分に、EVの充電スペースや防災井戸等を整備していきたいと考えます。
- 2点目は、建物からみた川側でマルシェ等が展開できるよう、建物自体を川からセットバックしました。土手の幅を有効に使えるように建物を下げました。
- 3点目は、水防団作業所という位置づけで、屋根つきのアトリウムを配置したいと考えます。（図面の水色の部分）
- 4点目が浸水域等眺望スペースとして、この2階建ての建物の屋上に展望スペースを設けたいと考えます。屋上は、内川・新川・阿武隈川、また町場が全部見える場所です。防災遠足などに対応するやめに必要だという意見が上がったため設けました。

### ②建築費の官民分担

- 建物はS造を想定しています。建築費は最大で9.4億円となる見込みです。
- 建築費につきましては、テナントで利用する部分を切り分け、残った分を防災関連の補助事業を導入することを考えています。テナントとして入っていただく部分につきましては、町が単独で借金をして、民間事業者の皆様へ借金返済の一定程度の負担をしていただくという形を想定しています。

### ③公共用地の民間利用―「都市地域再生等利用区域」の導入

- 「都市地域再生等利用区域」という国の制度を利用させていただいて、町と民間事業者がこの土地を国から借りて事業展開するというような取組が必要ですので、今後、手続きを進めていきたいと考えています。
- 施設等の運営につきましては、部会でも視察しました閑上地区の「かわまちエリア」の管理運営体制を参考にいたします。町とまちづくり会社などが運営主体になり、共同で運営することを想定しております。

### (1) 建築計画案

#### ①建築面積の変化

- アトリウムの大屋根の分が増えています。

- このアトリウムは、水防団が大雨の中で土のうに砂詰めるとかしんどいので、屋根の下でやれるようにしようという話と、日常的には観光利用がうまくできるようにしようという合わせ技施設。壁もないので、安いけれども、屋根かかっていると建築面積にカウントすることになる、端っこだけ、雨が掛かるところだけは除外できるかもしれない。（平野部会長）
- 外周から1メートル入ったところまでは床面積に含めるように考えています。（コンサルタント）
- それで床面積が増えていて、建物そのものはアトリウムを除く少し小さくなっている。（平野部会長）
- 小さくなっています。
- 了解です。（平野部会長）

## ②官民によるデザイン調整が大切

- スケジュール的には、建物は今年度基本構想計画だよ。民間事業者を決めていく話もある。民間事業者が決まったら本格的にデザインを一緒にやりながら調整していくというスタイルになる。したがって、今ご意見いただきたいのは、配置よりもこの部屋もうちょっと大きいほうがいいのではないのだとか、こんな部屋は要らないだろうという話のほうが大事です。それをどううまく配置するかは、これからの話だと思ってやりましょう。（平野部会長）
- 民間事業者による事業展開エリアと公で建てる水防センターの建物（観光交流センターも込み）のデザイン調整は、すごく重要になってきます。さも一体で建てたように見せたいなと思っています。もしくは、1人の設計者が全部やりましたというような状況になるのが理想だと思いますので、その立てつけ、設計検討体制、調整体制の確立をお願いします。（平野部会長）

## ③水防機能について

- 2階の一番左上、水防団の待機室、これは実際の指揮所になるのだと思うのです。実際19号のとき、消防団がいたところには指揮所的な部屋がなく、外に椅子を並べていました。あれでは情報収集がままならないし、あまりよくなかったなと思っていました。ここはテーブルとか椅子を置いて指揮所の利用できれば良いと思います。（宍戸）
- ありがとうございます。今後水防団の施設として、水防団との議論もすごく大事になってくると思うので、よろしくをお願いします。（平野部会長）

## ④防災教育

- 防災学習、防災面での検討も必要です。先に行なった住民説明会でも防災に関する意見をいただいています。また、宮城南部復興事務所さんからビデオや展示物等をいただいております。今後、この部会に検討委員でもあります柴山先生に入ってください、これから詰めていきたいと考えております。
- 5ページ、「防災教育としてどう展開するのか」というところは、今後詰めていき

ますということです。どういう水準のものを確保するかは、早めに検討ください。例えば「お金はかけないけれども、マンパワーはかける」という方向性も多分あります。言ってみれば語り部さんが常駐して対応する。しかしこの方法は人件費がかかる。展示物に多くのお金をかけるというやり方があるではないですか、陸前高田なんかは結構展示物にもお金をかけている。それに対して、南三陸は展示物にもちょっとは金かけているけれども、それよりも人の証言とか、そういうのを中心にうまいこと組み立てていて、多分インシャルコストはそんなに大きくないと思う。皆さんご存じでしょう、南三陸の資料館、資料館なのか伝承館なのか。結構違うのですよ。荒浜は荒浜小学校で、逆にすごくお金かけて現状保存、津波で被害を受けた状態を一生懸命保存するのを金かけてやっている。少なくともどういう方針なのかというのは、これは町、もしくは町の教育委員会、誰が所掌して責任持ってこの展示を決めていくのかという体制づくりからきちんとお考えいただくということをお願いしたところです。この辺は、柴山先生が詳しいのでご相談いただくといいと思います。（平野部会長）

○2階の学習室と展示スペース、ここは開放される、仕切りは取れるようではけれども、壁面の活用というのは今から考えておくこともいいのかなと思っていました。例えば「みちのく潮風トレイル・名取のトレイルセンター」に行くと、東北の潮風トレイルの大きな地図があります。ああいうものをどこへ掲げておくかとか、丸森だったら丸森全域、この広い町の山と川と分かるようにして、災害実態はどうだったのか、そういうのが分かるようなちょっとインパクトのあるものを展示しておく、それは防災教育にとってかなりいいのかなと思います。そういうものが壁面にどんと一つあって、それを中心にいろんな展示物があつたりすると、形が取れるのではないかなと思っていました。（宍戸）

○1階にポンプ車やボートがありますね。こういうのは、防災教育の関係からも外から子供たちが見られるようなことも配慮してほしい。そのように造ってもらえれば、防災教育の一環にも使える。消防団のほうもそのほうが気持ちいいですね。あとは、駐車場からも出入りできるように、ここの倉庫の辺からずっと中に入れればいいなと思います。（宍戸）

## ⑤屋上利用

○屋上で一望しながら、今回の水害の話をも具体的にできるといいですね、確かに。（平野部会長）

○屋上から周りを見れば、丸森の山々がよく見える。今回は支流からの災害ですよ。その意味合いを話すにはいいなと思っていました。（宍戸）

## ⑥トイレの位置について

○1階の平面でトイレが真ん中にある。夜は使えない。開館しているときだけ使うのか。また駐車場から入るときに、最初にトイレが見える。イベント会場までも兼ねるとなると、この場所でいいのか思う。（横山）

○ここに便所があると、チケットカウンターや販売コーナーがさっぱり見えない。申し訳ないけれども、トイレよりこっち見せるようにしてやらないと、何のために造ったかさっぱり分からない。（横山）

## （2）トイレトレーラーの整備

○トイレトレーラーが町に1つあるといいと思っていた。災害のときボランティアの人も使える。被災箇所がひどいと、やっぱりトイレ問題があると思う。日常で使えばこういうのがあるというのが広報できる。近隣で被災したところにトイレトレーラーを貸すこともできる。また、「川の駅」の南側の部分にトイレトレーラー置いておけば、施設内のトイレのあったところは普通の施設として使えるのではないかななんて思いました。（斎藤）

○どう、トイレトレーラー、買ってしまわない。（平野部会長）

●悪くないなと思って聞いていました。19号災害のときは、北海道庁の手配でトイレトレーラー2台ほど利用しました。

●ただ、必要以上に大きかったので、設置するのが大変だった。大変使い出がありました。したがって、トレーラーだと別棟というか、若干離しても置けるのかなと思いました。

○もしくは、1階は規模の小さいトイレにしておいて、1階利用者は外にあるトイレトレーラーも使う。2階のトイレはこのままでいいけれども。（平野部会長）

●管理者用のトイレは中に入ったにしても、お客さん用のトイレはトレーラートイレにする。

○トイレトレーラーが1台あれば、町のイベント、ちょっと人が集まるようなイベントの時もそこで使うことができる。すごく有効に使えるような気がします。（斎藤）

○総務省系でそういう防災設備を買う補助金とかないの。（平野部会長）

●7年度までです。防災減災。

●下水道接続できるのだけ。

●そうだといいのですが、接続しないとくみ取り費がまたアップしてしまう、

○だから、接続できるやつを造ってもらえばいい。ふだんは接続して使っておいて、タンクも持っておいて。タンクあるのだけれども、ふだんは接続しておいて、いざとなって出動して別のところに派遣するときはタンクに入れて。やれそうな気しない。とてもいい話のような気がする。ちょっとこれ前向きに考えてみましょう。（平野部会長）

## （3）防災井戸の整備

○国交省にお聞きします。「防災井戸」があると大変いいと思います。しかしここは河川防災ステーションだから河川区域ですよ。通常だったら堤防の法尻よりも内側なので、河川区域にはならないところです。だから、井戸を掘っても堤防には何の影響もないと思うのですけれども、河川区域内ですよ。井戸掘っていいですか。（平野部会長）

●多分ですが、堤防の内側に河川保全区域という20メートルのラインあって、そこも

井戸とか掘れないエリアです。さらにそれから外というのは可能かもしれません。担当も違うので、ちょっと即答できかねます。（国交省）

○保全区域も井戸掘れないのか。（平野部会長）

●掘れないです。地下構造物を造れないエリアになっているので。（国交省）

○保全区域も駄目か。（図に表記されている位置は）保全区域どころではないよね。

ここは河川区域になってしまうよね。位置的には。（平野部会長）

●区域的には、河川区域です。（国交省）

○通常ここは水防センターにしなければ河川区域にしない。だから、水防センターにするために河川区域にしてしまうエリア。普通に考えると、堤防ののり尻から保全区域の 20 メーター以上離す必要がある。でもこれこの位置だと 20 メーター離れていないよね。（平野部会長）

●離れています。

○そうであれば大丈夫。（平野部会長）

●ちょっとその辺は、詳しい者でないとはっきり申し上げられない。（国交省）

○要は技術的に何の問題もない。ここが水防センターでなければ、このポイントで井戸を掘ることが認められる場所なのだけれども、水防センターにするために河川区域に編入されてしまうと簡単に決められない。（平野部会長）

●井戸となると、また水利権の話になるので、そちらはまた認められない部分も出てくる。そういうのも含めて、こちらで検討しますというふうになると思います。（国交省）

○ぜひ前向きに検討下さい。技術的に問題ないのだけれども、国交省が防災ステーションを整備するために河川区域に編入するので、制度上の問題がでてくる。そこは、ぜひ内部でよく議論いただいて、実現できるようよろしくお願いします。（平野部会長）

### 3. 河川防災ステーション施設レイアウト

{資料説明（コンサルタント）}

#### ①備蓄土砂の仕上げ

●子供が遊びに来るような、ちょっとわくわくする丘みたいな形にしようという提案がありましたので、小山の形でコンター図を描いています。こういう形で道路側からずっと上がって、緩く水防作業スペース側に下っていくような丘をイメージしています。（コンサルタント）

●同じ平面図に赤く丸をつけているところがあります。中木程度の木を植えて、木陰ができるといいかなと思っています。（コンサルタント）

#### ②備蓄資材置き場の目隠し植栽、フェンス

●平面図の真ん中のところにあります資材置場（岩ズリ、連節ブロック、根固めブロック）の部分について、水防センターのほうから見栄えがいいように下げましょうという話がずっと出ています。今回南側に自然に排水するようなレイアウトで考えまして、一番下げられるような絵を描いています。（下の横断図は）一番下げた状態で、

段差が1.8メートルぐらい取れます。なので、ほぼ足元に下がるというようなイメージになります。（コンサルタント）

●1メートル弱ぐらいの土塁は造れそうです。ちょっと小さい丘があり、その先が下って資材があるという形になります。したがって平常時利用のときに、見栄えとして邪魔にならないような形ができるかなと考えています。（コンサルタント）

○（土塁の高さが）1mだと目線は通ってしまうので、どうするかね。目隠しフェンスまで必要。その辺のご意見をいただきたい。通常のエリアにいる（例えばこの丘を造っているところに行く）と、土塁が「見切れ」になって、資材は見えない。普通の1.5mの目線高で近づいていくと、当然土塁1mしかなければどんどん見えてきますよね。どのぐらいまで近づくと見えるみたいな断面図シミュレーションをやってもらって、これでいいかどうか確認してください。（平野部会長）

●分かりました。（コンサルタント）

### 3. 資材置き場の目隠し植栽

○資材置き場の周りを緑で囲った、これはいいなと思いました。名取に行ったときに、いろいろコンクリート部材を置いていました。あまりきれいではなかった。これを緑で囲っただけでかなり違うと思います。すごく有効だと思います。（宍戸）

○生け垣だと大変お金かかる。維持管理にお金かかる。したがって、土塁のような形状、土で盛って草を植えて、一緒に草刈りするのが一番楽でいいと思います。（平野部会長）

○「ここに来て楽しんで下さい」と言っているのに、片方にペンペン草があり、秋になると枯れ草になって伸びている。除草できるわけがないですよ、この岩ズリは。草刈りもできない。だから、できるなら隠せるといい。（横山）

○そう思います。（阿部）

○名取では、1m50cmぐらい伸びている。（横山）

○アワダチソウの類いが生える。でも、抜くのは簡単だ。しかし、国交省としては保管さえしておけば何の問題はないものに対して費用をかけて除草する理由は絶対つかない。そうすると、この場所を観光的に利活用する人が抜きますからと、協定を結んでおくしかないと思う。ただ、岩ズリのほうが汚いのだったら、岩ズリのほうをより遠くに置いて、ブロックを手前にという手はある。入れ替えてしまう。岩ズリもブロックも、置く場所はどちらでもいいので。（平野部会長）

○備蓄資材置き場の建設機械活動スペースの北側に、ある程度高木とかを並べてしまうと、これぐらいの土塁でも、アイストップになるはずですよ。そうすると、意識があまり行かなくなる。だから、完全に隠さなくてもこの辺に植栽を加えるだけである程度効果的になるかなと思います。これぐらいのスペースがあると、水取れるところないと管理上は結構きついただろうと思うので、その辺はセットで進めないと難しい。（阿部）

○管理用の散水栓のための水道管を忘れないでね。（平野部会長）

○ヘリポートの高さ制限の区域ですが、10m程度の高さは大丈夫ではなかったですか？（阿部）



- 高木植栽が可能な範囲は、ヘリポートの高さ制限を考慮しつつ検討します。（コンサルタント）

## （2）薪棚による目隠し、そして薪を利用する

- 丸森の薪は放射線が出たと、以前却下されている。私たちの山活動で製造している薪は、販売できる範囲の放射線量です。（斎藤）
- MARUMORI—SAUNAさんも、サウナの周りに薪を置いている。見た目にもいいし、実際にも使える。ここに薪棚を設ければ、使いながら備える防災というのになると思う。（斎藤）
- かっこいいアイデアだな。目隠しフェンス造るより薪置場造ったほうが絶対いいね。（平野部会長）
- 薪置場、絶対いいです。放射線量を測定して大丈夫だと分かれば、丸森の薪は大丈夫なのだという宣伝にもなる。ぜひ目隠しフェンス代わりに薪置場を検討してもらいたい。薪割体験をやっても面白そう。（斎藤）
- 絶対いいよね。オーケーです。薪がばつと並んでいると「健康アンドアウトドア」のイメージにもぴったりだ。（平野部会長）

## （3）まとめ

- 樹種も含めて検討して下さい。土塁や植栽による自然な目隠しを考えつつ、さっきの薪置場なんかもセットにしながらか、上手にこの健康とアウトドアの丸森なイメージを強調する形、合わせ技でやっていく方向でいきましょう。（平野部会長）

## 4. かわまちづくり計画等の検討

### （1）川風トレイルの検討

#### ①川風トレイル

- 川風トレイルで紹介する場所（資源）についてまとめました。現在すでにはないものもあるわけです。「大古町」なんていうのは。そうすると、やはり看板・説明書きというのが大事になります。例えば古墳時代の台町古墳群、（川の駅の下流）にありますか、向こうに行かないと看板がない。ですから、まとめて「川風トレイル」を紹介するものがあれば、あそこは古墳時代か、これは正宗の曾祖父さんの丸山城かとか、わかる。すごく魅力の発信につながるのかなと思って作成しました。最後のほうに参考として別紙図面をつくってもらって、こういう図にすると宣伝しやすくいいですよ。駅との関係も分かる。（宍戸）

#### ②川風トレイルと潮風トレイルの接続

- 8ページの右上、川風トレイルの全体像。これやっぱり「潮風トレイル」にくつつくところまで書かない。（平野部会長）
- くつついています。
- 表現として潮風トレイルのルートをちゃんと書いて、ここで接続という、そういう

表現にしてもらっていいかな。（平野部会長）

●はい。

○くっついているのね。くつつくところまできちんと川風トレイルを整備しよう。潮風トレイルは、コアなファンがちゃんといる。全線歩いた人が相当数いるでしょう。そういう人たちは発信してくれる。この手の話は結構重要で、全線歩いた人が情報発信するのはすごく迫力あるから、訴求力がすごい。そういうことを考えると、「寄り道してこっちまで行こうか」みたいになってくれるといいよと思います。（平野部会長）

## （２）町全体で一貫したサイン計画を

### ①サイン計画

○総務課長、町でちゃんとサイン計画つくったほうがいいです。最低限やってほしいのは、サインのデザインを決めること。サインシステムの基本を決めておく。丸森町が整備する際は、絶対これというデザイン決めておいて、どういう資金で誰が設置しようが、同じデザインになって、統一的に案内されるという状況にしないとうまくない。（平野部会長）

●今、町はデザイン会社と協定結んで入ってもらっています。丸森町出身の方です。今、広報のデザインや町の発信物のデザインを検討しています。その成果をもしかしたら使えるかなと、そんな風に思います。

○ぜひサイン計画を決めて下さい。そんな方がいらっしゃるのだったら、宍戸さんがつくってくれた「川風トレイル」、教育委員会にも中身確認してもらった上で、デザインすごく立派なものにして下さい。（平野部会長）

### ②フットタウン丸森のパンフレット

●今お配りしているのは、ロータリークラブさんのほうで作成していただいているトレッキングコースというのです。会長さんに説明していただきます。

○4月15日に丸森ロータリークラブ創立50周年というのがありまして、それに合わせてつくりました。作ったのは地元の佐藤印刷です。宮城県ウォーキング協会に来てもらって、きっちり見ていただきまして、認定コースとして作成いただきました。丸森のイチョウだとか、百々石公園の眺めとか、我々の仲間が素材を持ち寄って、最終的には佐藤印刷さんにお任せしてつくったということです。（横山）

### ③クリエイティブデザイナーのステイブ太田さん

○今クリエイティブデザイナーのステイブ太田さんのお話がありました。先日まで職員対象のセミナーがあって、私も4回受講したのですけれども、本当にすごくいい方で、太田さんが防災ステーションの計画についてもすごく興味を持っていたのです。山形市のQ1（キューイチ）という、廃校を利活用した施設。あれをやった方です。（斎藤）

○入ってもらおう。（平野部会長）

○入ってもらったら駄目なのかなと思ったりしていました。（斎藤）

●入ってもらいましょう。

○この方は、ぜひ防災教育チームにも観光交流チーム、両方に入ってもらっていいのではないのでしょうか。（平野部会長）

○その人にコンテンツとしてしっかり見てもらう。素晴らしい方がいらっしゃるようなので、補強しましょう。見て分かる、歩きながらでもサインを見てちゃんとたどり着ける、そういう仕組みをつくっていきましょう。（平野部会長）

○ひとつはサインシステムをきちんとつくる。太田さんをお願いして基本のデザイン決めてもらう。安い費用でできるもの。要は余り予算でどこの部署でもつくれるような。場合によっては、商工会がつけますだとか、ロータリークラブがつけますみたいな、寄附してもらうときはこのデザインという感じで、町総出で同じデザインのサインシステムを展開するというのをぜひ取り組んで下さい。（平野部会長）

#### ④かわまちづくりでサインをつくる

○国交省も、かわまちづくりでサインをつくれるよね。（平野部会長）

●かわまちの中でつくることは可能です。（国交省）

○かわまちづくりでフットパスを整備しました、そのフットパスに関わるサインだったら大丈夫ですね。（平野部会長）

### （3）大階段のデザイン

○大階段もこんな感じ（資料 10 ページ）で整備しましょう。柏の葉の例はうまいよね、調整池に向かって下りていく階段。歩くための階段は細めで離してつけて、その間に座ることができる階段状の観客席的な部分がある。（左右の階段から）コンクリートは通っていて、観客席にはなる。一気に通貫して下りることはできないだろうけれども、このようにデザインすると大階段に見える。コスト安くでも使い勝手は全然悪くない、見栄えもいいという、なかなかいいアイデアだと思う。この手のデザインを今後かわまちづくりの計画の中に入れましょう。（平野部会長）

○ステージを兼ねる階段。福島県伊達市梁川美術館の前にあります。ただしもっと急な階段で、そこが椅子になっています。（宍戸）

### （4）選奨土木遺産記念碑の設置

#### ① 候補地の検討

○選奨土木遺産のプレートは、ちゃんと橋が見えるところにつけたい。今の話だと、弁天社の木を切るなという話もあったので。この設置場所は、皆さんで議論してくださいという感じだけれども、弁天社はやめたほうがいいのではないかという話だね。（平野部会長）

○場所ですけれども、阿武隈の里山の事務所があるところ、ラーメン屋の跡地、船着場の手前。あそこだと、ちょうどトラスの赤い橋がよく見える。写真撮るとしたら、やっぱり橋と一緒に記念碑も撮りたい、私なら。（斎藤）

○丸裸にしたお社ほどかわいそうなものはない。確かに鬱蒼とし過ぎているから、あ

る程度きれいにするのは必要だと思うけれども、全部切るというのは本当に悲しいのでなし。（斎藤）

○弁天社のはす向かいの対岸がいいね。（平野部会長）

○右岸に丸森橋の水位測定の小さい建物がありますね。実はあそこと橋の間に昔の古い御影石の（防護柵が）残っていますよね。あそこにパイプをつないで、あれも遺産の一部かなと思っていた。なかなか風格があるものです。あの辺でもいいかなと思っています。これはやっぱり現場を見て決めるべきです。（宍戸）

○そうだね。（平野部会長）

○現場で考えないと、何かちょっと出てこないですよ。（宍戸）

## ②国交省施設について

○あの水位観測所は、国交省。（橋を眺めるのに）邪魔になる。動いていないの？使っていないの？（平野部会長）

●今は使っていない。そもそも水質測るために設置した。（国交省）

○水質か、水位ではなくて。撤去してよ、では。使っていないなら、撤去しようよ。あの建物によって橋がきれいに見える場所がすごく限られていると思う。使っていないのだったら、撤去しませんか。（平野部会長）

●カメラもついている。（国交省）

○カメラ、ポール立てればいい。あんなごついもの。ちょっと考えてほしい。あの施設、橋見るのには、すごくいい場所にある。（平野部会長）

## ③全員で現地を見て候補地選定

○どこまで公有地か。写真撮りに下りていったところは民地だと思う。（平野部会長）

○やっぱり写真を撮りたいという心理になる。弁天社だと駐車場がない。石碑が立つというのは、それ見てほしいからなので、人が止まる・駐車しやすいところもポイントかと思います。（斎藤）

○右岸だな。土地も買ってしまうか。（平野部会長）

●右岸の畑のところ水没しますので利用できません。右岸の天端道路付近も考えました。碑を置くと、碑をバックに写真を撮ることになります。撮影者は、車の事故に遭う危険があり、難しいのではないかと考えました。

○現場見ないと分からない。今の説明は、現場のイメージとちょっと違う。（横山）

●天端に碑を設置すると、碑を見ながら、碑も入れた阿武隈川、丸森橋の写真は撮れない。バックして撮影するとなれば、車が来る道路に出てしまうので、ちょっと難しいと考えました。そこで、弁天社の位置がいいかと。丸森橋を造った時の歴史にも関係することもあり、こちらがいいのではということで動いています。

○先ほどの弁財天のあそこに大きな石がありますよね。あそこに舟橋を架けるときのワイヤーの支点が残っています。船霊さんとか金比羅さんの石碑もありますから、弁財天のところもやっぱり面白い。いろいろネタがあります。（宍戸）

○現地を見て決めることとする。（平野部会長、横山）

**全員で現地見学（右岸～丸森橋～左岸・弁天社～丸森橋～右岸）**

**結果：丸森橋の右岸上流の道沿い、丸森橋が斜めに見えるところを、選奨土木遺産記念碑の設置場所とする。**

#### (5) 水辺の楽校について

○今回、「水辺の楽校」の絵がない。水を引き込んで流し池や、内川に飛び石を設けて対岸に渡るようにする構想があった。飛び石の下に仕切りの板を入れて、そこに水を溜めたいと何度も話してきたのですが、その絵がない。（横山）

○飛び石に関しては何か僕が文句言った気がする。これだけ砂出てくる川だったら、すぐ砂で埋まってしまうのではないかと、維持管理できないと言った。（平野部会長）

●河川防災ステーションのいわゆる東側のやぶ地の場所でございます。部会長の指摘がございましたので、今回の資料にはまだ入れておりません。今後「かわまちづくり」と一緒に水辺空間の利用について議論していきたいと思っております。

●丸森地区河川防災ステーションの右側の三角になっている部分の一部がやぶでございました。ここは、水辺の楽校で利用できないかといっていた場所です。現在は河川防災ステーションを造るための残土置場として、国交省が樹木等を伐採し整地して、河道掘削した土を仮置きする用地として利用することになっております。その工事が終わってからの利用方法等については、これから少し見直していきたいというふうに考えております。

○仙台河川国道に聞きたいのだけれども、水辺の楽校とはまだ制度的にはあるの。（平野部会長）

●制度的にはまだございます。（国交省）

○水辺の楽校は、河川環境整備事業でやっていたよね。事業費は確保できるの？（平野部会長）

●かわまちづくりの中で取り組むという方法もあります。かわまちづくりの事業期間は5年です。（国交省）

○ではその5年間の中でどういうふうに整備して段取りするかというのは、仙台河川国道さんもぜひ考えていただいて、丸森町との相談をしつつ、お願いしたいと思います。（平野部会長）

#### 5. 対岸高水敷の樹木伐採

●丸森大橋の下は、一部樹木を残して伐採するエリアで、部会のメンバーが対岸からの眺望等をいろいろ何回も確認し、残す木を選定しております。

●樹木伐採後、国のほうでは整地までして今後の利活用につなげていただくという話で、今半澤さんを中心にいろいろ協議を進めている状況です。

●図の①の箇所についても、もともと木がなかった場所なので、弁天社付近も含めて伐採をお願いしています。

●図の②の箇所についても、阿武隈川河川運動公園から鳥屋館との間に相当の樹木が生い茂っているので、現地を確認しながらできるだけ伐採する方向で進めておりま

す。

○専門家のデザインセンスで残す木が決まっているので、出来栄を楽しみにしてください。一応半澤さん中心に、牧草地的に使う予定ですよ。とてもすっきりしたきれいな水辺が出てきて、この防災ステーションから見ると、幾つかきれいな木が残っている向こう側が牧草地になっていてという景色が出来上がると、最高です。(平野)